

4年生総合試験

1. 32歳の女性。3回経妊2回経産で児は健康である。避妊指導目的で受診。3年前に深部静脈血栓の既往があり、抗リン脂質抗体症候群と診断されている。適切でない避妊法はどれか
 - a 低用量ピル
 - b コンドーム
 - c IUD
 - d 卵管結紮術
 - e 精管結紮術

2. 子宮に直接 付着してない支持組織はどれか
 - a 仙骨子宮靭帯
 - b 円靭帯
 - c 卵巣固有靭帯
 - d 骨盤漏斗靭帯
 - e 子宮広間膜

3. 傍大動脈リンパ節を精査する必要があるのはどれか
 - a 子宮頸部扁平上皮癌
 - b 子宮頸部腺癌
 - c 外陰癌
 - d 子宮体癌
 - e 膣扁平上皮癌

4. 妊娠高血圧症候群で重症化した際の検査データについて 正しくないのはどれか
 - a Hb 値の上昇
 - b AST 値の上昇
 - c 血小板数の増加
 - d 尿酸値の上昇
 - e BUN 値の上昇

5. LH サージを誘導するのはどれか

- a プロゲステロン
- b エストロゲン
- c プロラクチン
- d FSH
- e アンドロゲン

6. 32歳の未婚、未産婦。過多月経を主訴に来院した。内診所見で子宮はやや腫大し、経腔超音波検査で径 1.5cm 大の粘膜下筋腫を認め、WBC 5600、Hb8.5g/dl であった。適切でない治療はどれか

- a 子宮鏡下筋腫核出術
- b 鉄剤投与
- c 単純子宮全摘術
- d 低用量ピル投与
- e GnRH アゴニスト投与

7. 35歳の女性。挙児希望および不正性器出血を主訴に受診。内診にて子宮は正常大、両側の付属器は触知せず。経腔超音波検査にて子宮内膜の肥厚を認めたため、子宮内膜組織診を行ったところ、異型を伴う子宮内膜増殖症の所見であった。最初に行う治療として適切なのはどれか

- a MPA 療法
- b 低用量ピル投与
- c 単純子宮全摘術
- d GnRH アゴニスト投与
- e Kaufmann 療法

8. 精巢性女性化症の原因はどれか

- a アンドロゲン受容体異常
- b エストロゲン受容体異常
- c 性染色体異常
- d 副腎機能異常
- e 性腺刺激ホルモン分泌異常

9. 主に産道感染が問題となる 感染症でないのはどれか

- a HIV 感染
- b B 型肝炎ウイルス感染
- c 梅毒感染
- d ヘルペスウイルス感染
- e B 群溶連菌感染

10. 胎児心拍数モニタリングにおいて変動一過性徐脈の原因と 考えられないのはどれか

- a 羊水過少
- b 臍帯下垂
- c 臍帯巻絡
- d 胎児児頭圧迫
- e 前期破水

11. 胎盤機能不全が進行した際に認められる 所見でないのはどれか

- a 不均衡型の子宮内胎児発育遅延
- b 遅発一過性徐脈の出現
- c 胎動減少
- d 羊水過少
- e 胎児呼吸様運動の増加

12. 習慣流産の原因と 考えにくいのはどれか

- a 糖尿病合併
- b 均衡型染色体相互転座
- c 中隔子宮
- d 抗リン脂質抗体症候群
- e HPV 感染

13. 子宮筋腫合併妊娠で合併しやすいのはどれか

- a 弛緩出血
- b 子宮内反症
- c 子宮頸管裂傷
- d 前置胎盤
- e 子宮破裂

14. 卵巣癌のリスクを高めるのはどれか

- a 低用量ピル
- b HPV 感染
- c 早発閉経
- d 多産
- e 不妊治療

15. 不妊症に関する検査の組合せで 正しくないのはどれか

- a 乏精子症－精液検査
- b 卵管閉鎖－Rubin 試験
- c Asherman 症候群－子宮卵管造影検査
- d 黄体機能不全－内膜日付診
- e 卵巣周囲癒着－Huhner 検査

16. 23歳女性。3ヶ月間の無月経を主訴に受診。身長 160cm、体重 48kg。内診にて子宮および子宮付属器には異常を認めない。妊娠反応（－）であった。診断および治療目的でまず投与する薬剤はどれか。

- a ゲスターゲン
- b クロミフェン
- c エストロゲン・プロゲステロン合剤
- d 低用量ピル
- e GnRH アゴニスト

17. 多嚢胞性卵巣症候群と 関連しないのはどれか

- a 多毛
- b 月経異常
- c 肥満
- d FSH 異常高値
- e インスリン抵抗性

18. 腫瘍マーカーの組合せで正しいのはどれか

- a 子宮内膜癌－SCC
- b 絨毛癌－AFP
- c Kurkenberg 腫瘍－CEA
- d 卵巣漿液性嚢胞腺癌－LDH
- e 卵巣未分化胚細胞腫－hCG

19. 子宮内膜症について正しいのはどれか

- a 卵巣チョコレート嚢胞の診断には CTの方が MRIよりも優っている
- b 子宮腺筋症は、卵巣における子宮内膜症よりも若年に発症しやすい
- c 子宮内膜症の腹膜病変の発見には腹腔鏡検査が有効である
- d 挙児希望のある子宮内膜症患者の治療の第一選択は GnRH アゴニストの投与である
- e 子宮内膜症の診断には CA125 の測定が必須である

20. ヒトパピローマウイルス感染が 関連しないのはどれか

- a 子宮頸部扁平上皮癌
- b 子宮頸部高度異形成
- c 扁平コンジローマ
- d 膣上皮内腫瘍
- e 外陰扁平上皮癌

21. 切迫早産・前期破水の治療に原則として 用いないのはどれか

- a ステロイド
- b 抗生物質
- c 塩酸リトドリン
- d インドメサシン
- e 硫酸マグネシウム

22. 母体合併症の妊娠に及ぼす影響で正しい組合せはどれか

- a 糖尿病－新生児貧血
- b 特発性血小板減少性紫斑病－低出生体重
- c 腎疾患－早産
- d シェーグレン症候群－胎児頻脈
- e てんかん－羊水過少

23. 胎児循環で正しいのはどれか

- a 臍動脈は外腸骨動脈から分岐する
- b 卵円孔により右室から左室に血液が流入する
- c 臍静脈から肝臓へ直接血流が流れる
- d Arantius 静脈管は、総腸骨静脈に流入する
- e Botallo 動脈管により肺動脈から上行大動脈への短絡路が形成される

24. 妊婦健康診査で毎回検査する 項目でないのはどれか

- a 母体体重増加
- b 子宮底長
- c 尿蛋白
- d 血圧
- e 羊水量

25. 胎児・胎盤機能を評価する 検査でないのはどれか

- a 母体尿中エストリオール
- b 母体血中 hPL
- c 胎児心拍数モニタリング
- d 羊水量
- e 子宮頸管癌胎児性フィブロネクチン

26. 産褥の経過で正しいのはどれか

- a 産褥熱の発生頻度は経膈分娩の方が帝王切開より高い
- b 深部静脈血栓の発生頻度は、分娩とともに急速に低下する
- c 子宮復古不全の原因として最も多いのは子宮腔内の遺残物である
- d 初乳に含まれる免疫グロブリンの大部分は IgG である
- e 産褥期の後陣痛は分娩回数が増すほど軽減する